左京二条二坊の調査
—第345次

はじめに

調査地は奈良市法華寺町393番地で、奈良時代の左京二条二坊十四坪に相当する。集合住宅の建設に伴い、事前に発掘調査を行った。調査期間は2002年6月17日から25日まで。調査面積は東西8m、南北7mの56㎡である。

基本層序

現地表面の標高は約62.7m。現地はすでに住宅建設のための造成が行われていたため、重機によって客土を除去した。造成土の下には、上から順に、耕作土（灰色砂質土）、床土（灰色砂質土）、中世から近世にかけての耕作土（灰褐色砂質土）、奈良時代の遺物包含層（橙灰色砂質土）、奈良時代の整地土（暗褐色砂質土と灰色粘質土）、地山（灰色粗砂と黄褐色粘質土）が堆積する。奈良時代の整地土は、地山の標高の低い場所にのみ部分的に堆積していた。遺構は整地土および地山の上面で検出した。

検出遺構

溝1条と土坑・柱穴22基を検出した。柱穴には掘立柱の掘形と抜き取りが明瞭に区別できるものもあったが、調査区内のみでは建物としてまとめることはできなかった。SD8350は調査区の南端付近で検出した東西溝。幅は0.2～0.4mで、深さは0.1～0.2m程度。東西の標高差から、西へ向かって流れる。

出土遺物

遺構および遺物包含層から、土器、瓦、金属器、石器が出土した。土器と瓦はコンテナ2箱程度で、いずれも奈良時代のものである。金属器は和同開珎銅銭1点。石器はサヌカイトの剥片が1点ある。今回の調査区より南側の第189次調査で出土した多量の旧石器と比較しても風化が進んでいないことから、この剥片を旧石器と考えることはできない。木製品と木簡は出土しなかった。

まとめ

今回の調査は面積が小さく、遺構の密度は高いものの、調査区内のみで建物としてまとめることはできなかった。今後の周辺地域の調査に期待したい。なお、遺物包含層からサヌカイトの剥片が出土したので、第189次調査で旧石器を検出した黄褐色粘質土まで地山を一部掘り下げたが、旧石器は出土しなかった。　（豊島直博）

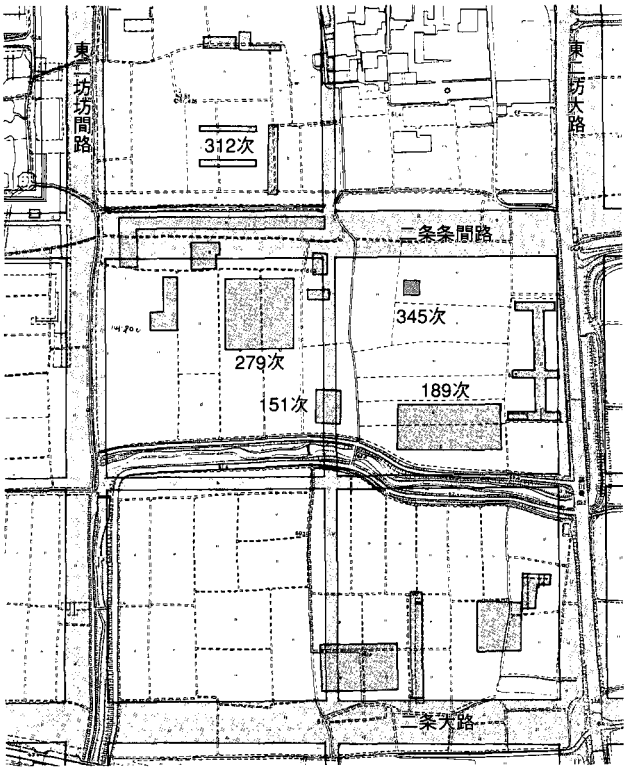

図180　第345次調査区位置図　1：4000

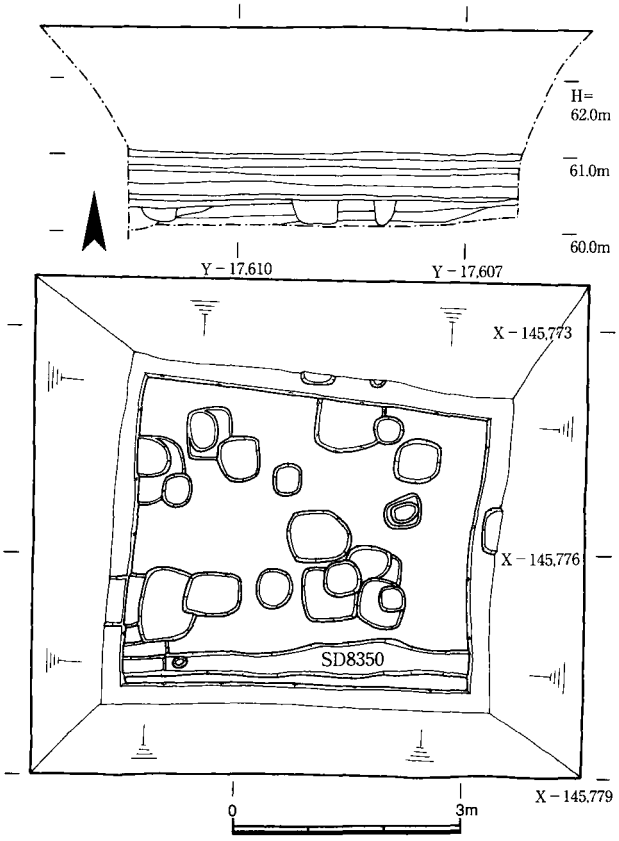

図181　第345次調査遺構平面図・北壁断面図　1：100